日本学会議
オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
オープンサイエンス企画分科会
オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会（第25期・第3回）
議事要旨

1. 日時 令和4年6月15日（水）19:30～21:30
2. 会場 オンライン開催（Zoom）
出席者（五十音順、敬称略）：狩野 光伸、木部 暢子、喜連川 優、武田 洋幸、
林 和弘、菱田 公一、溝端 佐登史
説明者：大林 茂（東北大学流体科学研究所教授）
3. 議題
 - (1) 前回議事要旨の確認
 - (2) 話題提供：「航空におけるデジタルとグリーン」大林茂先生（東北大学）
 - (3) その他
4. 配布資料
資料1：第2回議事メモ要旨（案）
5. 議事
 - 大林教授により、「航空におけるデジタルとグリーン」と題した話題提供が行われた。
 - 航空におけるデジタル化は、サイバー空間と（アディティブマニュファクチャリングも考慮した）物理空間の活用であり、デジタルツインへ移行中である。
 - 物理的体系をデザイン後、実データをもとにバーチャルでモデリングして新しい知見を素早く得る（後方乱気流の解析の事例をもとに）ことや、バーチャルな分析で飛行試験等の認証が行えるようにする CbA(Certification by Analysis)ことが一つの到達点となる。（ボーイングは2040年までに達成目標を設定）
 - データ流通が鍵、多くの企業が絡んでおり、データが効率よく行き渡ることがポイント。
 - 航空研究、産業においてもグリーン（カーボンニュートラル）が重要視され、IATAの宣言なども出されている。ただし、その実践は依然難しい面もある。
 - 企業とアカデミアの合意の形態としては、研究手法や研究コンセプトは学術としてオープンにし、結果としてのアウトプット（形や材料等）は企業が持ち秘匿する形がある。

- 良い装置であることの保証の一つはその装置から出たデータがオープンになっていて、多くの検証に耐えられることである。その意味でのオープンデータ基盤の意義は大きい。
- 以上の話題提供をもとに議論を行った。また、本講演とディスカッションを踏まえ、その要点を答申に含めることで今後の検討を進めることとした。
- 次回（第4回）は、桜田 一洋氏（慶應義塾大学 医学部 石井・石橋記念講座（拡張知能医学） 教授）に打診することとした。

以上